

景気回復を背景に、さらなる 上昇が期待される新興国株式

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

新興国株式は、年初から上昇基調が続いています。

その背景として、新興国経済が昨年後半から、輸出数量の拡大や商品価格の持ち直しなどにより、回復傾向にあることが挙げられます。企業景況感をみると、これまで米国やユーロ圏など先進国の改善が先行していましたが、足元ではブラジルやロシアなどを中心に新興国の企業景況感も改善しており、経済成長の継続が示唆されています。新興国の企業収益をみると、年初から予想EPS(1株あたり純利益)が顕著に改善しており、株価はこれらを織り込む形で上昇したとみられます。セクター別の株価騰落をみると、世界的な半導体市場の改善などを背景に、ソフトウェアなどのITセクターの上昇が目立っています。

金融政策については、ロシアやブラジル、インドネシアなどの中央銀行は、低水準にあるインフレ率を背景に、利下げを継続しており、景気への追い風となっています。また、米国は今年、すでに2回の利上げとバランスシート縮小の決定を行なったものの、新興国の為替や資金フローの大きな変動には至っていません。

また、新興国株式のバリュエーションをみると、予想PERやPBRにおいて先進国株式に比べ割安な水準にあります。それに加え、新興国株式は、直近高値(2007年10月)をいまだ下回る水準にとどまっており、2007年の高値を更新している先進国株式に比べ、上昇余地があると考えられます。

今後のリスクとして、米利上げが予想以上のペースで進み、金利上昇や米ドル高から、新興国の米ドル建て債務が膨らむことで、経常赤字の新興国を中心に資本流出につながる可能性が挙げられます。しかし、米国の賃金やインフレ率は緩やかな伸びにとどまっており、金融引き締め強化の必要性は高まっていないとみられるほか、世界経済の回復が続いていることなどから、新興国株式は上昇基調が続くと期待されます。

新興国の株価と予想EPSの推移

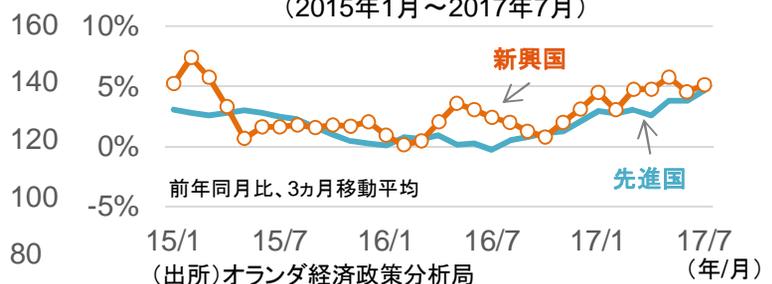
(2007年1月5日～2017年10月6日、週次)



※新興国株式:MSCIエマージング・マーケット指数
先進国株式:MSCIワールド指数いずれも米ドルベース、プライスリターン

輸出数量の推移

(2015年1月～2017年7月)



予想PER(株価収益率)とPBR(株価純資産倍率)

(2017年10月6日)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。